

令和3年度発達障害基礎講座

アーチルの役割と本人が地域 で暮らすための連携・協働し た支援について

南部発達相談支援センター
所長 早坂 健一

本日の流れ

- 1 アーチル開設までの経緯
- 2 アーチルの概要
- 3 組織と職員体制
- 4 アーチルの業務
- 5 アーチルが目指すもの
- 6 おわりに

発達相談支援センター(アーチル)とは

○発達障害※のある本人とその家族が対象

※ 知的障害, 重症心身障害, 高機能自閉症,
ADHD(注意欠陥多動性障害), LD(学習障害)など

○「早期出会い」と乳幼児から成人までの「生涯ケア」
をめざす仙台市直営の相談機関

本人・家族とともに

- 発達相談(療育)
- 地域での相談支援

地域・市民とともに

- 市民への普及・啓発
- 地域との連携・協働

アーチルの3つの顔

①児童相談所の一部業務

- ・ 障害児に関する相談・調査・判定・指導

②知的障害者更生相談所

- ・ 知的障害者に関する専門的相談・判定指導
および関係機関の支援

③発達障害者支援センター

- ・ 発達障害者に対する専門相談支援

アーチル開設までの経緯

- 昭和53年 仙台市心身障害者相談センター開設
- 平成元年 仙台市政令指定都市移行
仙台市児童相談所開設
- 平成5年 仙台市知的障害者更生相談所開設
仙台市心身障害者相談センター廃止
- 平成11年 仙台市リハビリテーションシステム
検討委員会提言
- 平成12年 仙台市発達相談・支援センター要望書
- 平成14年 アーチル開設

アーチルの支援対象

従来の障害者福祉
の対象

- 知的障害
(知的障害を伴う自閉症なども含む)
- 身体障害
(18歳までの脳性麻痺や二分脊椎など)
- 重症心身障害

知的障害を伴わない発達障害
(高機能自閉症、ADHD(注意欠陥多動性障害)、
LD(学習障害)など)

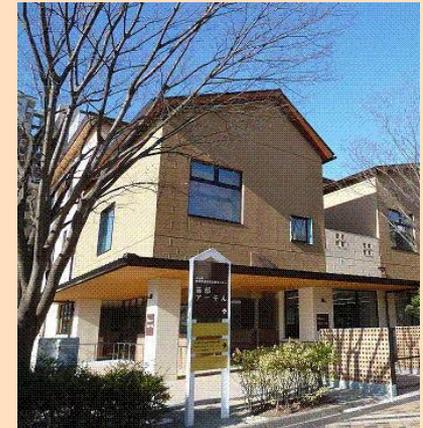
アーチル開所以降
全ライフステージに
わたって相談増加

南北2館体制



北部アーチル
(平成14年4月開所)

場 所：泉区泉中央
担当区：青葉区
宮城野区
泉区



南部アーチル
(平成24年1月開所)

場 所：太白区長町南
担当区：若林区
太白区

「アーチル」という愛称は、「アーチ(橋)」と「パル(仲間)」をかけたものです。
障害のある方と市民の「架け橋」になるようにとの願いが込められています。

アーチルの組織

(令和3年4月時点で 総勢150名)

北部アーチル (所長)

総務係 (4名)

企画調整係 (6名)

乳幼児支援係 (17名)

学齡児支援係 (12名)

成人支援係 (7名)

(+ 再任用名・会計年度任用職員37名)

南部アーチル (所長)

総務係 (3名)

乳幼児支援係 (12名)

学齡児支援係 10名)

成人支援係 (7名)

(+ 会計年度任用職員17名)

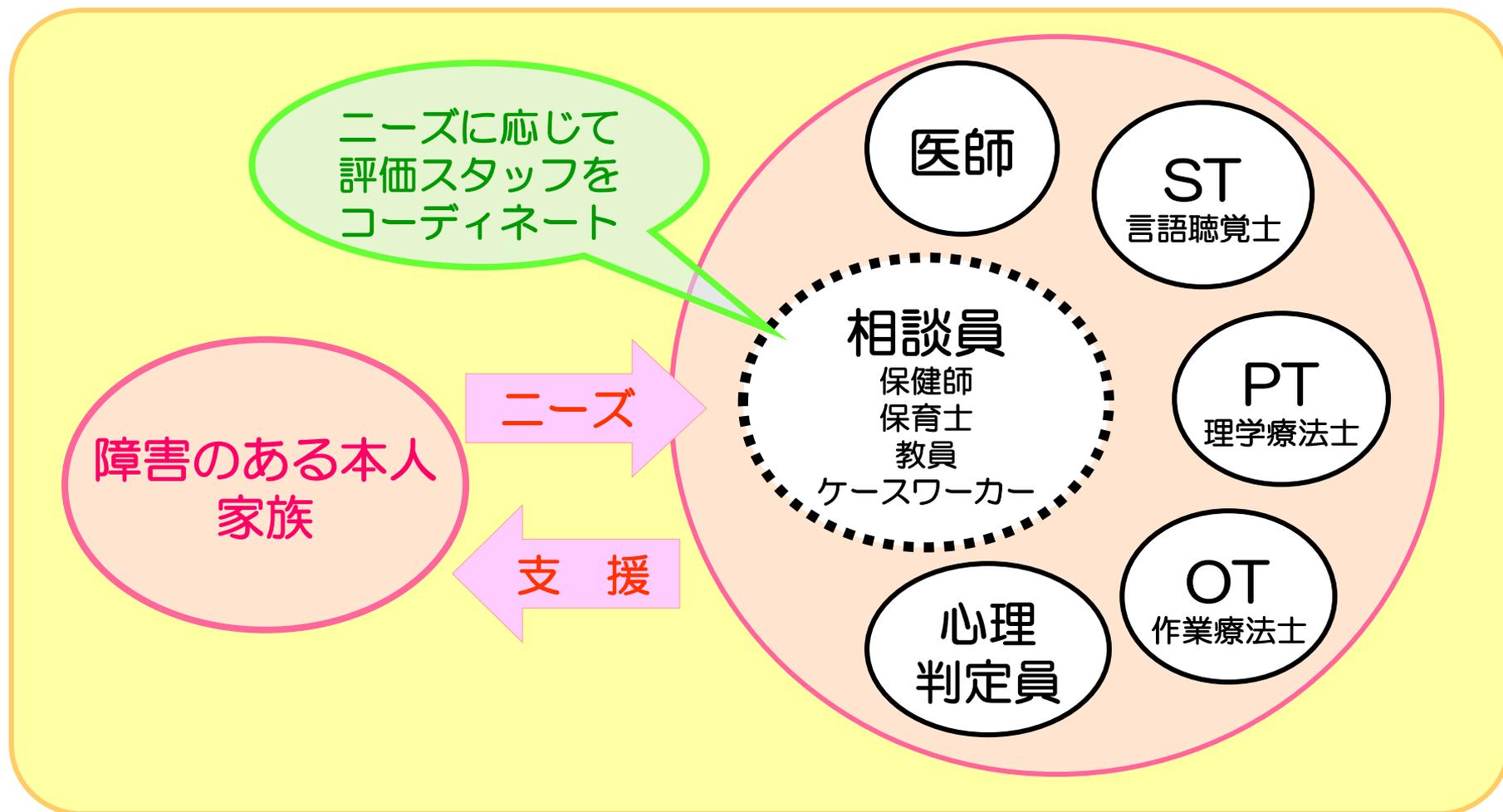
医師(南北兼務※)

常勤 (2名)

非常勤 (14名)

※一部例外あり

チーム・アプローチ



アーチルの業務

① 個別相談（新規・継続）

乳幼児相談 学齢児相談 成人相談

② 療育支援

初期療育グループ

③ 地域生活支援

関係機関や支援施設のバックアップ

自閉症児者相談センターや地域活動推進センター等との連携

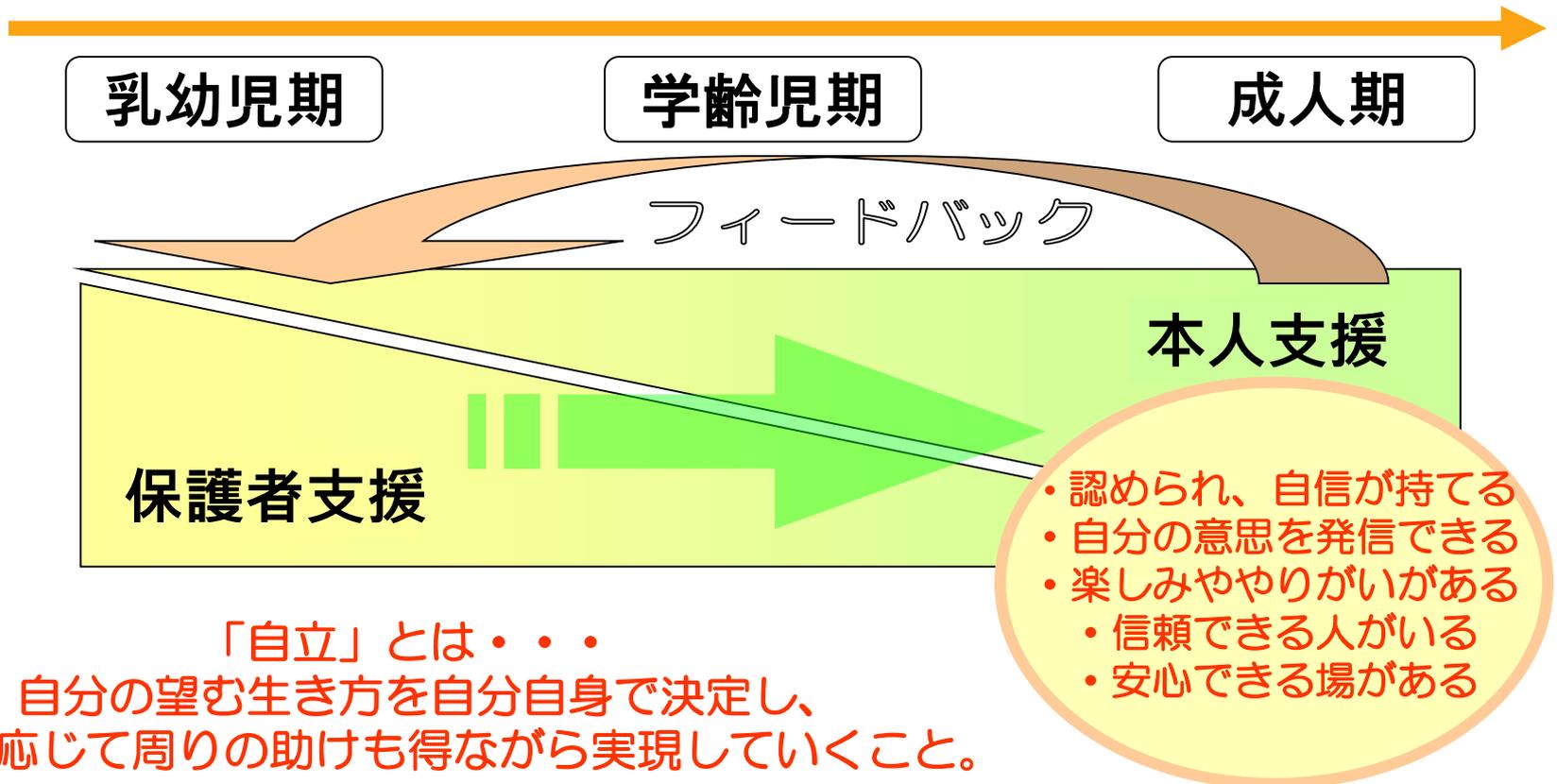
④ 判定・措置

⑤ 普及啓発・広報（機関紙や啓発冊子の発行等）

⑥ 人材養成（各種セミナーや研修講座の開催）

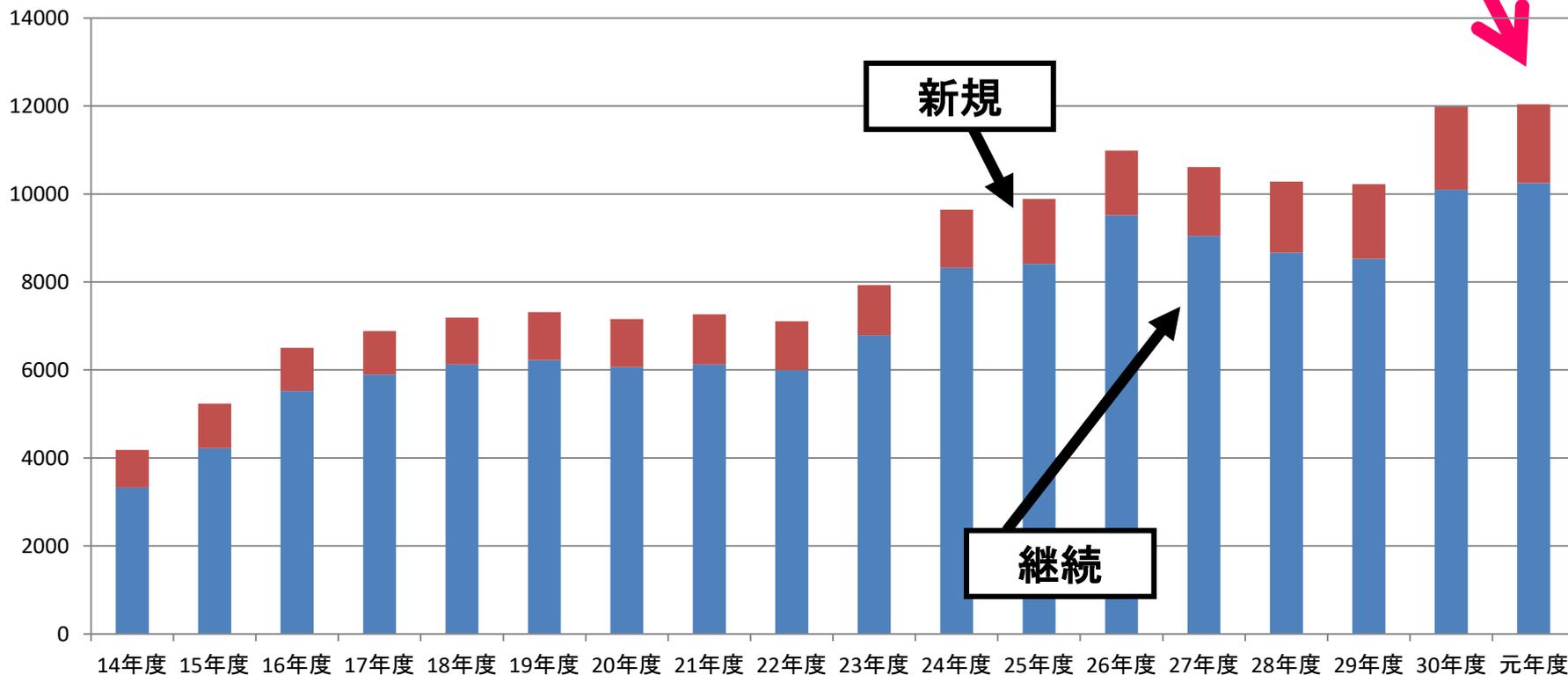
生涯を通じた支援

将来の自立した生活を見据えて ～支援の基本的な考え方～

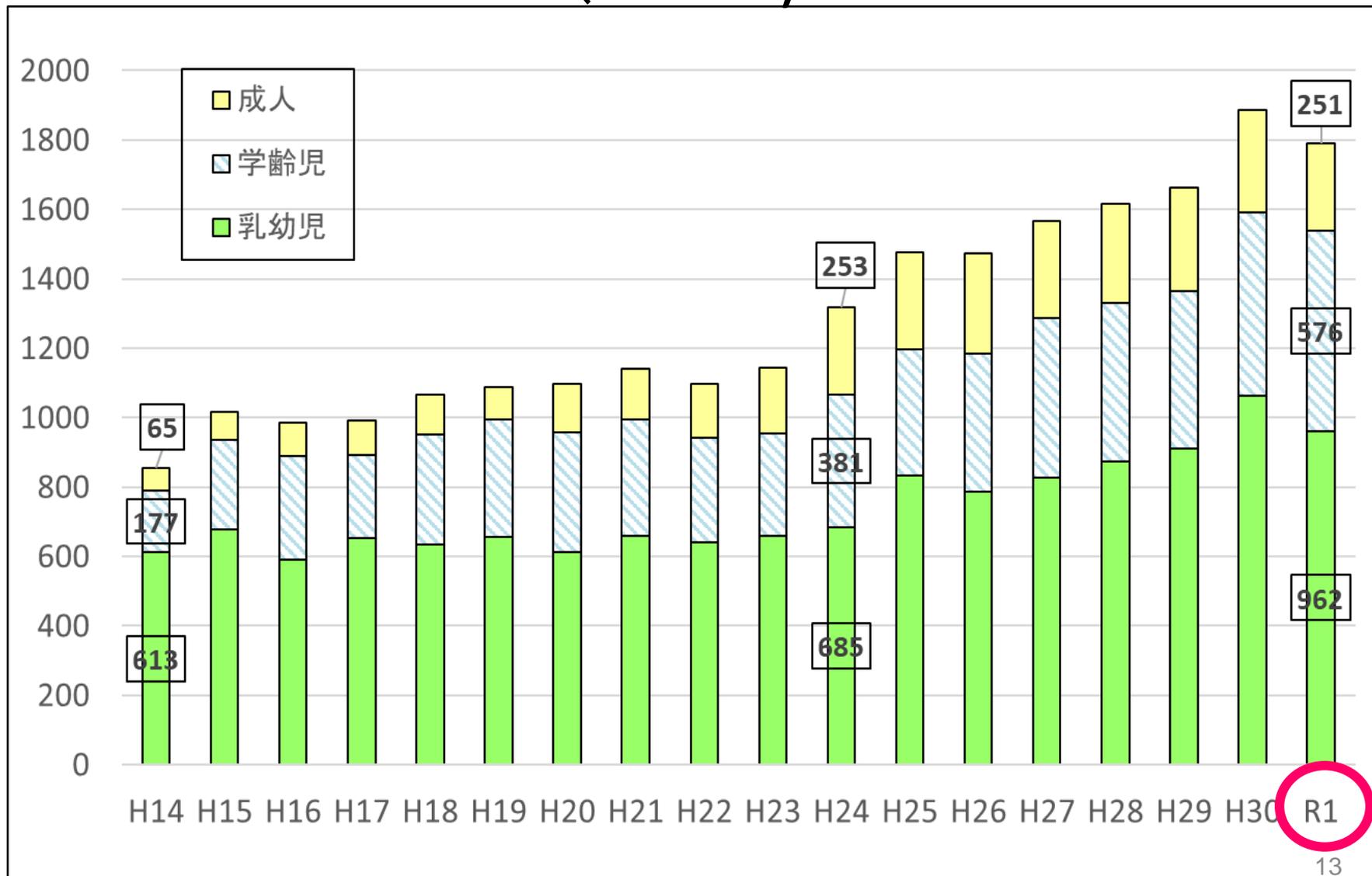


相談総数 開所からの相談件数推移 (全体)

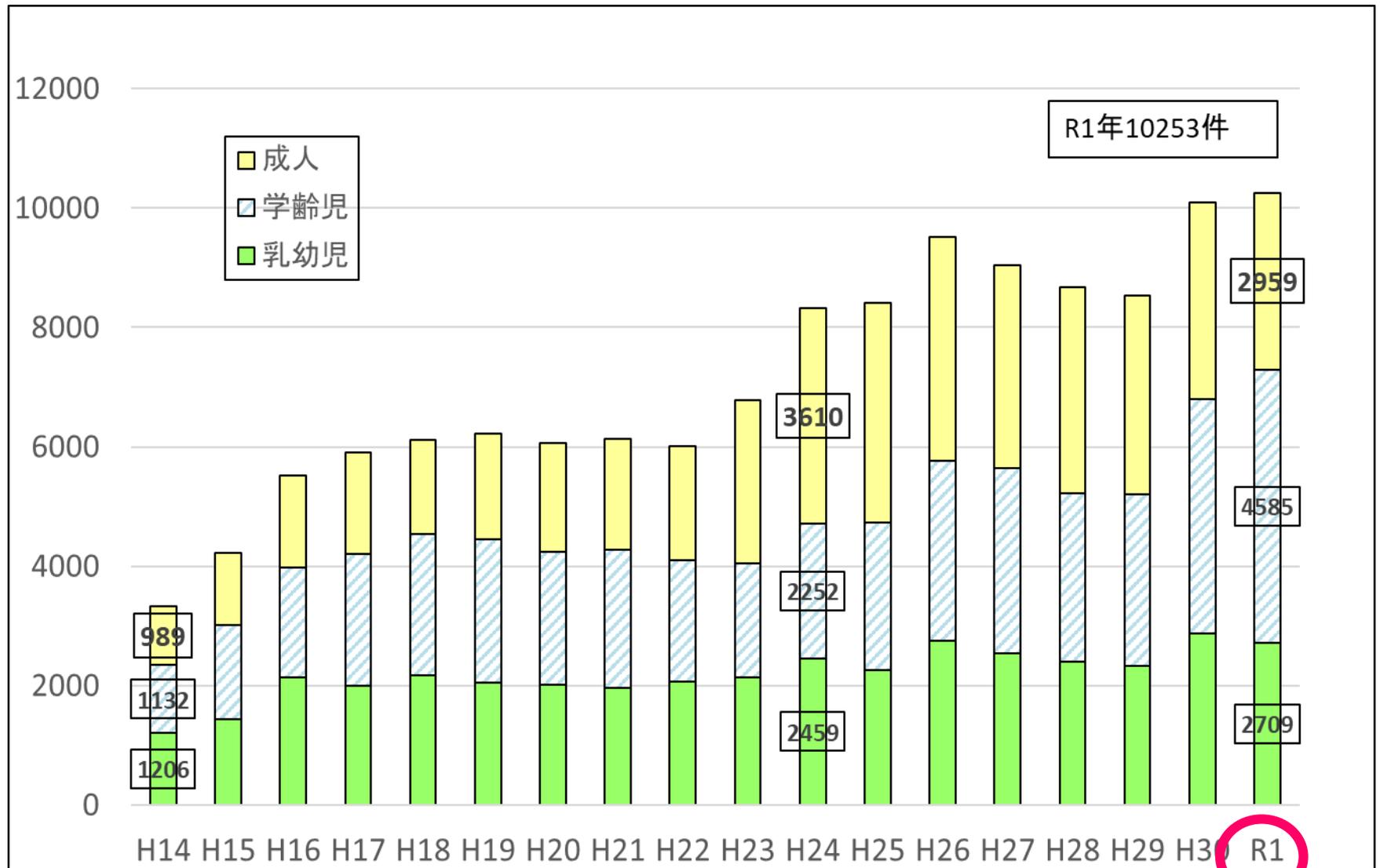
新規 1,789件
継続 10,253件
相談総数 12,042件



ライフステージ別 新規相談件数の推移 (H14～R1)



アーチル開所時からの継続相談件数の推移 (H14～R1)



乳幼児相談の現状と課題

- 早期出会いはほぼ実現できている。
- 多くの保護者が発達障害について調べて来所しているが、氾濫する情報に混乱している場合も少なくない。
- 新規相談時、すでに保育所や幼稚園等に在籍しているケースが増加傾向にある。
- 養育力の問題や、DV・虐待等対応の難しい問題を抱えた家庭が増えている。

学齡児相談の現状と課題

- 「障害」の判断が難しい新規相談が増えている。
- 虐待や触法、不登校等問題がいくつも絡み合い、アールのみでは支援困難なケースが増えている。
- 重度の知的障害を伴い、自傷他害やパニック等の行動障害を二次的に生じているケースも少なくない。
- 知的な遅れのない発達障害児からの、福祉サービス利用希望が増えている。

成人相談の現状と課題

- 就労継続困難等から、自ら発達障害を心配して来所する新規相談者数が増えている。
- 継続相談が多く、中でも20歳代の相談が急増している（相談できる地域の社会資源が不足している）。
- 触法、長期引きこもり、家庭内暴力、精神科系疾患併発等、問題が複雑に絡み合った対応の難しいケースも増えている。
- 医療的ケアを必要とする重症心身障害者や、行動障害等の重度の障害を持つ方々の住まいの場や支援者が不足している。



以上のような
現状と課題を踏まえて...

「あったらいいな」の実現へ向けて ～発達障害者支援地域協議会～



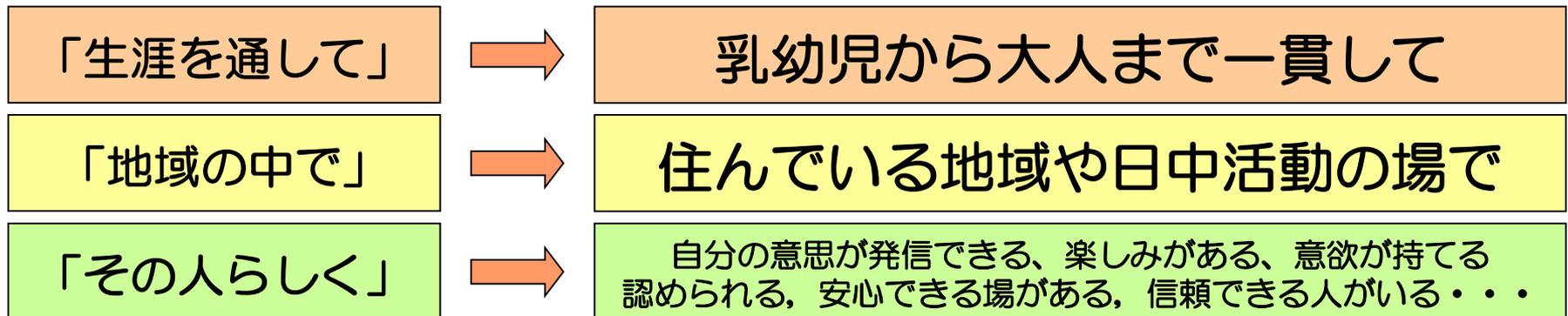
課題解決と「あったらいいな」の実現へ向けた提言



アーチルが目指すもの

誰でも地域の中であたり前に暮らしたい。しかし…
障害があると「あたり前」が「あたり前」にできない現実がある。
本人や家族は、あきらめたり、孤立してパワーレスになることも多い。

そこで・・・



- その人の暮らしを推し量りながらニーズを探る相談支援
- 個別の相談から把握された全体の課題解決に向けたシステム作り

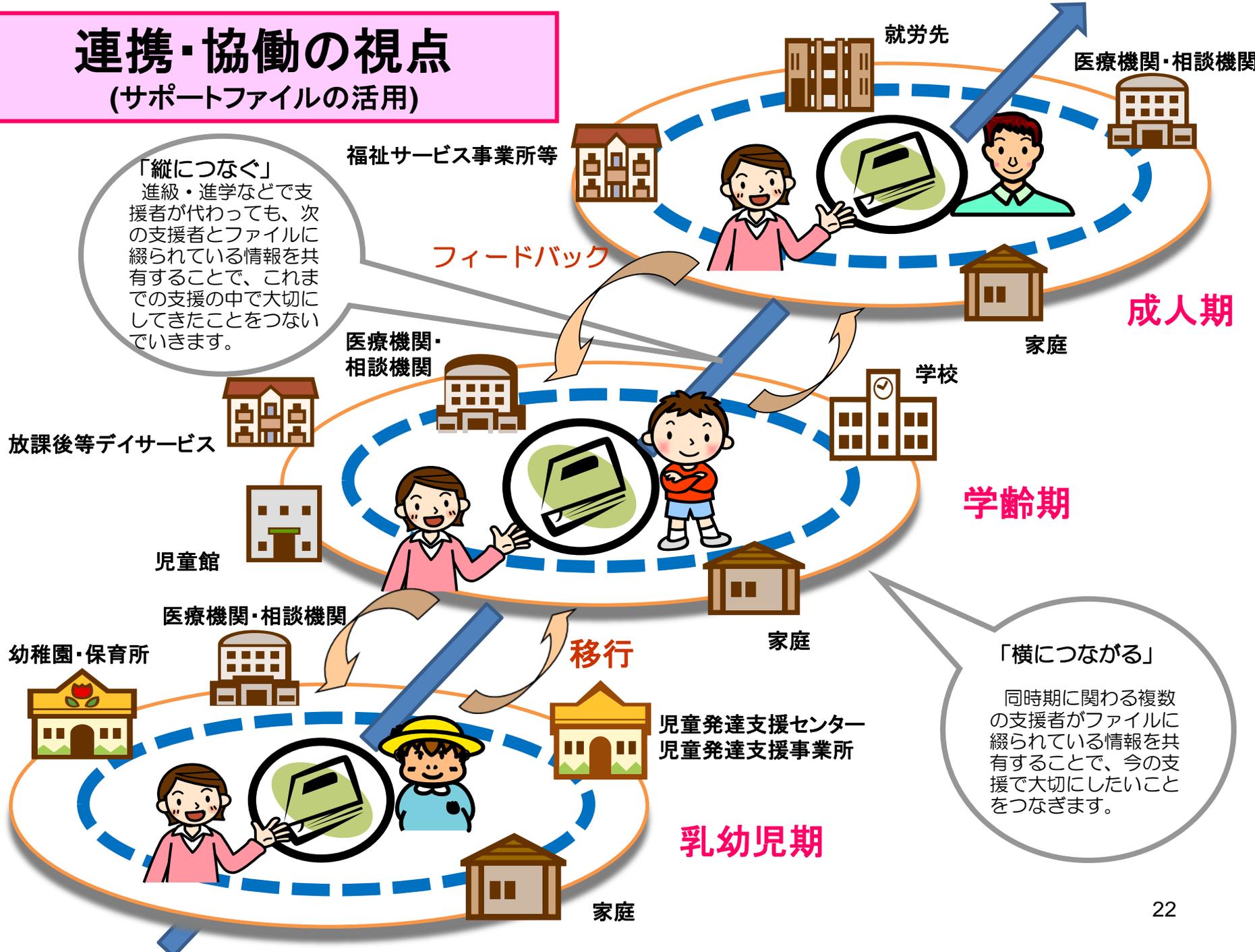
ケアマネジメントの考え方や
ICF(国際生活機能分類)、障害・制度に関する知識等

ケアマネジメントとは…

【ケアマネジメントの考え方・共通の理念】

- 1 本人の願い(ニーズ)を中心に支援する。
- 2 チームで統合的な支援する。(連携・協働)
- 3 エンパワメントを支援する。
(自分で意思を表明できる。自ら問題解決に向かう力を持つ)

連携・協働の視点 (サポートファイルの活用)



アールは、障害があっても「その人らしく暮らせる」社会の実現へ向けて、皆さんと一緒に取り組んでいきます。

